

平成30年3月19日(月)

メ モ	担当者 [REDACTED]
会社名・役職 氏名 生年月日	[REDACTED] 株式会社 [REDACTED] (輸出管理担当者) [REDACTED] 電話 [REDACTED]
<p>1 取調日 平成30年3月16日(金)</p> <p>2 取調場所 [REDACTED] [REDACTED]</p> <p>3 取調結果</p> <p>(1) 供述調書2通</p> <p>ア 同社が製造・販売等している噴霧乾燥器に対する輸出規制の判断基準等について</p> <p>イ 被疑会社製噴霧乾燥器「スプレードライヤRL-5」において製造した粉体が漏洩することなく運転することの可否等について</p> <p>(2) その他参考事項</p> <p>ア 本件 RL-5 の仕様について ([REDACTED] 所有の RL-5 との比較)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本フロー図を比較すると乾燥室下部に若干の違いがあり、数値から見ても分かるように本件 RL-5 の方が高さがあり、全体的に少し大きいことが分かります。</li> <li>ノズルについては、一般的で広く出回っている「SUS304」ではなく、払拭・サビに強い「SUS316」というタイプのノズルを使用しており特徴的です。</li> <li>バグフィルタの形状について、本件 RL-5 のように丸い形状の方が耐圧に強く洗淨も容易のため医薬用として使用されることが多く、四角型の形状に対して表面積が小さく粒子が装置内に堆積しにくい特徴があります。したがって、本件 RL-5 の方が実験機よりも大きく熱が伝わりにくい、丸い形状であることから、ヒータの熱電力と送風量が同じであれば、表面積の小さい本件 RL-5 の方が乾熱滅菌しやすい器械と言えます。</li> </ul> <p>イ サイクロン・バグフィルタ内の熱風の動き及び温度について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>サイクロン内部は風が通りやすい構造になっており、気流の動きは弧を描きながら回収容器の底に向かって降下していくイメージです。放熱がなければ入口温度とほぼ同程度の熱風がサイクロン下部まで行き届きます。このサイクロン内の気流の動きを表した学術論文がありますので参考にしてください。(別添資料の通り)</li> <li>次にバグフィルタについては、排風口の位置が上部にあり、送風の方よりも排風器の引圧の方が強い、下部にまで気流が届かない構造になっています。したがって、バグフィルタ内の温度は下部の方が上部よりも温度が20度くらい低いことが予想されるため、次回の実験では排風口の出口温度とバグフィルタ内の下部の温度も測定するべきだと思います。また、バグフィルタ入口の正面にバッフル(通称: じゃま板)が設置してあるか否かによっても内部の温度は変わってきます。バッフルは、固定された板のようなもので、気流の動きを上下左右に変える役目をしており、気流が下方に流れるよう設置してあればバグフィルタ下部の温度は上昇す</li> </ul>	

ると考えられます。当たり前の話ですが、風量が強ければ強いほど熱風は全体に行き届きやすくなるので温度は高くなりますし、バグフィルタの大きさが大きいほど放熱してしまう可能性が高くなるため温度は低くなります。

ウ HEPA フィルタ・ろ布を付けた場合の温度変化について

HEPA フィルタとろ布の両方を取り付けた場合であっても装置内の温度に変化はありませんし、ろ布によって気流の動きが変わることもないため、バグフィルタ内のろ布の有無によって実験結果に影響が出ることは考えられないです。

エ 断熱加工について

被疑会社のパンフレットを見ると、RL-5 型のバグフィルタの外側にナットのようなもので断熱材を留めている加工がされており、これは結露を防ぐ目的のためと考えられます。そのため、一般的な何の加工もされていない噴霧乾燥器よりは、多少（5度くらい）装置内の温度は高くなると想定されます。

オ 生きたままの菌を粉体化させる技術について

取引先である [ ] は、当社の噴霧乾燥器を使用して整腸剤等の製造を行っており、生きたままの菌を粉体化させる技術についての特許も取っているで参考になる思います。

(3) 添付資料

サイクロン内の気流の動きを表した学術論文（ [ ] ）を先方より参考資料として頂いた。